




No.3堆肥の活用と施肥方法の改善による麦類の品質・収量の向上

- 活動期間 令和5年度～令和7年度
- 対象者名 涌谷町麦類生産者 14経営体
- 課題の背景
 - ・涌谷町では、14経営体が146ha(令和5年産)の麦作に取り組んでいる麦産地である。近年、周辺町域に比べ低収の年が出てきている。
 - ・町内産堆肥のストックヤードを建設中であり、麦大豆作付け体系のなかで無理なく麦作に活用できる散布方法が求められている。
 - ・「夏黄金」に「シラネコムギ」の一括追肥方法を流用し追肥しているが、弱小穂の発生が多いなど「夏黄金」に適していない可能性がある。

活動内容及び成果の概要

定性的目標	活動事項	活動内容及び成果
<p>◆土づくりの重要性に対する理解が進み、町内産堆肥の有効活用が図られる。</p>	<p>◆堆肥の有効活用支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堆肥散布試験 ・堆肥散布意向調査 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 土壌診断を行い、町内麦作ほ場の土の状態を確認した。地力が低下したほ場が一部見られた。 ■ 町内産堆肥の成分分析を行い、適切な麦作での散布量を算出し、講習会を通じて伝達した。 ■ 麦生育中の3月に堆肥を施用する試験を行った。施用量が少なく単年度の施用であるため、継続して確認する必要があるが、施用ほ場では収量、千粒重が優った。 ■ 散布意向調査では、7経営体がストックヤード堆肥を麦作に活用していきたいと回答。 <div data-bbox="1125 1036 1396 1218" style="text-align: right;">  <p>【堆肥散布のようす】</p> </div>
<p>◆効果的な施肥方法に対する理解が進み、取組者が増加する。</p>	<p>◆麦類の品質・収量の向上支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葉面散布試験 ・圃場巡回、栽培指導 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 従来の減分期一括追肥にかえて葉面散布追肥を試験した。弱小穂は明らかに増加が認められたが、弱小穂による品質低下は見られなかった。 ■ 今後、前年の結果を踏まえ、弱小穂を減らすまたは弱小穂があっても収量・品質への影響を少なくする施肥方法を検討していく。 ■ 現地検討会を通じ、追肥時期や刈り取り時期指導を行った。 ■ R5年産の町内平均収量は395kg/10aと前年の261kg/10aに優った。 (管内平均収量はR5:400kg, R4:337kg) <div data-bbox="1133 1346 1396 1502" style="text-align: right;">  <p>【刈り取り適期現地検討】</p> </div> <div data-bbox="1153 1533 1373 1719" style="text-align: right;">  <p>【収量調査】 左・対照区 右・試験区</p> </div>

定量的数値目標の達成状況

数値目標：堆肥散布実施者数
 令和4年度 0経営体→5年度 1経営体→6年度 3経営体→7年度 6経営体

R5年度における達成状況：3経営体